

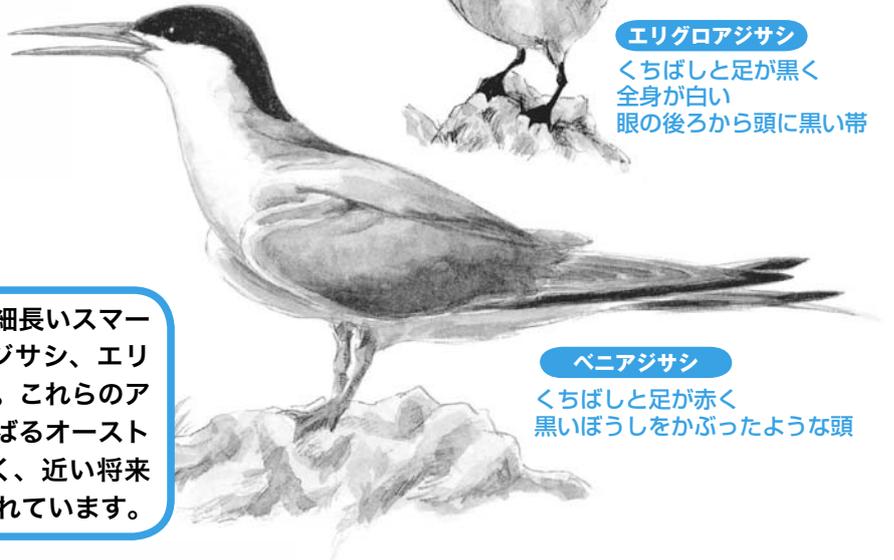
アジサシが 繁殖にきています



コアジサシ
くちばしが黄色で背中が灰色



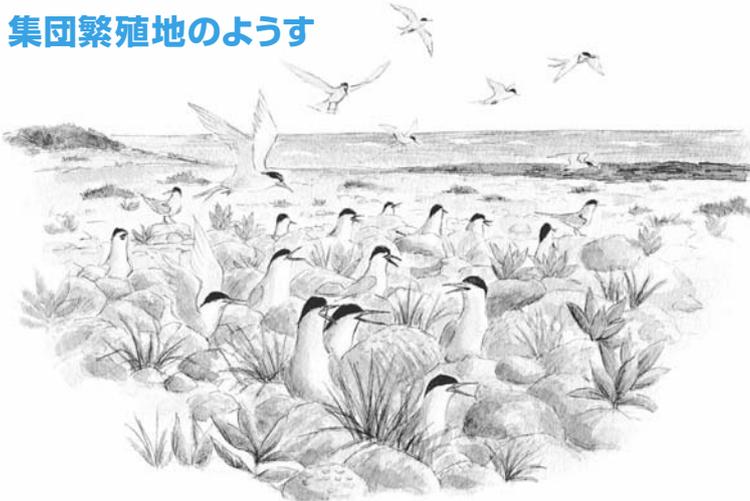
エリグロアジサシ
くちばしと足が黒く
全身が白い
眼の後ろから頭に黒い帯



ベニアジサシ
くちばしと足が赤く
黒いぼうしをかぶったような頭

アジサシはカモメの仲間の海鳥で、翼が細長いスマートな姿をしています。沖縄ではベニアジサシ、エリグロアジサシ、コアジサシがみられます。これらのアジサシは、産卵や子育てのために、はるばるオーストラリアなどから飛来します。数が少なく、近い将来に絶滅してしまうのではないかと心配されています。

集団繁殖地のようす



アジサシは、年に一度、4～8月頃に沖縄にやってきて産卵や子育てをします。あまり人の姿がみえない海岸や無人島などを選んで、数十～数千羽の集団で密集して巣をつくります。近頃、こうした集団繁殖地のまわりで観光や自然観察がおこなわれるようになり、アジサシたちが安心して産卵や子育てすることができなくなっています。

あたたかく見守ってください

海岸や無人島の集団繁殖地は、アジサシたちが子孫をのこすために、かけがえのない大切な場所です。アジサシの産卵や子育てを妨げないよう、観光や自然観察のときには心づかいをおねがいします。

沖縄のアジサシたちを見守ってください



アジサシの親鳥は、産卵や子育てをするとき、周囲のようすにとっても敏感になっています。海岸や無人島で観光をするときには、近くにアジサシがいないか気をつけてください。もし集団繁殖地があったら近づかないでください。とくに、以下のようなことに注意しましょう。

物音や火に注意

繁殖中のアジサシは、物音や火に対して敏感に反応します。集団繁殖地の近くで花火、水上バイク、サンドバギー、キャンプ、たき火など、大きな音を立てたり火を使ったりしないようにしましょう。

花火

空を飛ぶものに注意

繁殖中のアジサシは、空を飛んでいる物体に対して特に敏感に反応します。集団繁殖地から見えるところまでスポーツカイトやパラセーリングをおこなわないようにしましょう。

パラセーリング

マリンスポーツに注意

シーカヤック、スノーケリング、ダイビング、水上バイクなどのマリンスポーツをしていると、海の上から、いつのまにか集団繁殖地に近づいてしまいます。とくに上陸時には、近くにアジサシの繁殖地がないか気をつけてください。

スノーケリング

アジサシのようすに注意をはらい、おちつかなくなったり、飛び立ったりしたら、それ以上は近づかないようにしましょう。

釣りや散歩

集団繁殖地には絶対に入り込まない

集団繁殖地の中に入り込むと、アジサシを強く刺激するだけでなく、巣や卵やヒナを踏みつぶしてしまったり、親とヒナを離ればなれにしてしまうなど重大な影響を与えてしまいます。入り込むことは絶対に避けてください。

シーカヤック

とくに5月中旬～6月には注意！

アジサシが沖縄に飛来して産卵や子育てをするのは、毎年4月～8月ごろです。とりわけ、巣をつくり卵を抱いている5月中旬～6月にかけては、もっとも敏感になっており、刺激を与えると、最悪の場合、その年の繁殖をあきらめてしまうことがあります。これらの時期には、とくに気をつけてください。